

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ワンハートビレッジ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 31日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 1月 31日		～ 2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりの発達や特性、ご家族様の思いを丁寧に向いながら支援計画を作成しています。個別活動と集団活動をバランスよく取り入れ、それぞれのお子様に向けた支援を心がけています。	お子さま一人ひとりの発達や特性、ご家族様の思いを丁寧に向うため、定期的な面談や日々のやりとりを大切に、小さな変化や成長も共有できるよう心がけています。また個別活動と集団活動については、お子さまの発達段階やその日の様子に合わせて組み合わせを工夫し、無理なく安心して参加できる環境づくりを意識しています。成功体験を積み重ねられるよう、活動の内容や難易度にも配慮しています。	また、アセスメントの充実や支援方法の見直しを定期的に行い、新しい知見や支援技術も取り入れながら、より根拠に基づいた支援の実践を目指します。あわせて、保護者の皆さまとの面談機会や情報共有の場をさらに充実させ、ご家庭と連携しながらお子さまの成長を支えていける体制づくりを進めてまいります。
2	日々の打ち合わせや振り返りを大切に、職員間で情報共有を行いながら支援の質の向上に努めています。支援前後のミーティングや定期的なモニタリングを通して、より良い支援につながるよう改善を重ねています。	支援前の打ち合わせでは、目標や配慮点、役割分担を確認し、職員間で共通理解を図っています。小さな気づきも共有し、チームで同じ方向を向いて支援できるよう心がけています。支援後は振り返りを行い、良かった点や課題を記録し、次回の支援に活かしています。定期的なモニタリングを通して必要に応じて計画を見直し、継続的な改善に努めています。	今後は、振り返りの内容をより具体的に記録・分析し、改善点を明確にしたうえで支援に反映していきます。また、ケース検討の機会を定期的に設け、多角的な視点から支援方法を見直すことで、チーム全体の専門性向上を図ります。また外部研修への参加や新しい支援方法の導入を進め、より質の高い支援の提供を目指してまいります。
3	安全面においても、各種マニュアルの整備や定期的な訓練の実施など、安心して通っていただける環境づくりに取り組んでいます。職員研修も継続的に行い、専門性の向上に努めています。	各種マニュアルを整備し、職員間で内容を共有したうえで支援にあたっています。定期的に訓練を実施し、緊急時にも落ち着いて行動できるよう確認を行っています。また、日頃から安全点検やヒヤリハットの共有を行い、小さな気づきも大切にしながら事故防止に努めています。職員研修については継続的に実施し、学んだ内容を職員間で共有することで、支援の質の向上と安全意識の強化につなげています。	今後は、各種マニュアルの定期的な見直しと更新を計画的に行い、より実態に即した内容へと整備してまいります。また、訓練内容の振り返りを丁寧に行い、課題や改善点を次回に活かすことで、実効性のある体制づくりを進めます。あわせて、専門的な外部研修への参加や事例検討の機会を増やし、安全管理と専門性のさらなる向上に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児や子どもの特性によりや地域との交流活動や社会参加の機会が十分に確保できていないです。	日々の支援業務を優先する中で、地域連携に充てる時間や体制づくりが十分でないことが要因の一つです。また、具体的な連携方法や計画が明確でないことや、安全面への配慮から交流機会が限られてきたことも影響していると考えています。	職員の人数や医療ケア児への配慮で直接の交流が難しい場合でも、小規模・短時間での参加やオンラインでの交流など柔軟な方法を検討していきます。また、事前に安全面や個別の配慮点を整理し、交流時の役割分担を明確にすることで、負担を減らしつつ交流機会を持てるよう工夫します。
2	家族参加型の研修・学習会や交流会の開催が十分でないため、保護者や地域との連携強化が課題となっています。	課題の要因として、就労されている保護者が多いことや職員配置・人員・時間に余裕が限られていること、利用者対応を優先するため家族参加型活動が後回しになりやすいこと、地域や他事業所との連携体制が十分でないことが挙げられます。	地域交流や家族参加型活動の充実に向け、柔軟な開催日時の設定やオンライン参加の導入を検討します。職員間で役割分担を工夫し、少人数でも研修・学習会・交流会を実施できる体制を整えます。また、地域や他事業所との連携ネットワークを強化し、保護者や地域との関わりの機会を増やします。
3	より質の高い支援を目指すため、今後は第三者による外部評価の導入を検討し、客観的な視点を取り入れながら事業所運営の向上を図ってまいります。	第三者による外部評価が未導入であるため、客観的な視点や外部の専門的な意見を取り入れる機会が十分でないことが課題の要因です。これまでの業務改善や評価は内部で完結しており、外部の視点を活かした評価体制や改善策の検討が十分に行えていないことも影響しています。	今後は、第三者による外部評価を定期的に導入し、客観的な視点から事業所運営や支援の質を確認してまいります。また、内部評価と外部評価を組み合わせることで、継続的な業務改善に努めてまいります。